

まちかど アルバム



ミス・ワールド日本代表の佐々木えるざさん 鳥取市の観光大使に

市役所本庁舎

来年のミス・ワールド日本代表に選ばれた鹿野町出身の佐々木えるざさんが11月5日（水）、市役所本庁舎を訪れ、竹内市長に喜びの報告を行いました。その席で、鳥取市観光大使の委嘱を受けた佐々木さんは「鳥取の豊かな自然や素晴らしい祭りを世界にPRしたい」と抱負を語りました。ミス・ワールド日本代表に佐々木さんが選ばれたことは快挙であり、地域にとって大きな喜びです。

紫のじゅうたんを駆け抜ける

福部町

ラッキョウの花が見ごろを迎えた10月26日（日）、「ふくべらつきょう・花マラソン大会」が福部町で開催されました。今年で22回目を迎えるこの大会には、世界陸上選手権（1993年）女子マラソン優勝の浅利純子さんがゲストランナーとして特別参加。マラソンの部、ウォークの部に参加した約1200人は、可憐で美しい紫色のラッキョウの花が一面に咲くコースを、それぞれのペースで走ったり、歩いたり。いい汗をかきました。



昔ながらの道具で脱穀

鹿野町

10月30日（木）、鹿野小学校の5年生が「千歯」や「足踏み脱穀機」など昔ながらの道具を使って稲の脱穀を体験しました。これは、子どもたちに田植えから稲刈り、そして脱穀を手作業で行ってもらうことで、農業の楽しさと大変さを感じてもらおうという取り組みの一環です。初めて見る道具に興味津々の子どもたち。慣れない手つきながらもみんな一生懸命でした。

万葉のふる里こくふまつり

国府町中央公民館

11月2日（日）、「万葉のふる里こくふまつり」が開催されました。会場となった国府町中央公民館周辺では、ピンゴゲームやフリーマーケット、地元特産物の販売などが行われ、終日、大勢の家族連れらでにぎわいました。また、公民館ホールでは、国府中学校吹奏楽部や地元の太鼓グループ「因幡万葉おんな太鼓」が力強い演奏を披露。観客は惜しみない拍手を送っていました。カッコイイですね。





にいなめさい 新嘗祭への献上米を選別

河原町

新嘗祭への供え物として宮中に献上される米の選別作業が10月24日（金）、河原町老人福祉センターで行われました。米は、4月の杵まきから9月の稲刈りまで、河原町天神原の献穀田^{けんこくでん}で丹精込めて育てられたコシヒカリ。奉仕者の田中和美さん^{たなかがすみ}（河原町中井）らが、欠けたり黒ずんだりした米を一粒ずつピンセットで取り除き、約1升の献上米となりました。この米は、11月23日に皇居で行われた新嘗祭に供えられました。

ヨガでスリムな体づくり

プラザ佐治記念ホール

プラザ佐治記念ホールで開催されているヨガ教室の様子です。「基礎代謝量が増えることで太りにくくなる」「体のバランスや柔軟性が良くなる」など、指導員の中原啓子^{なかはらけいこ}さんにヨガの効果について説明を受けながら、独特の呼吸法や捻りのポーズなどを学ぶこの教室。参加者たちは、普段あまりとることのないポーズに戸惑いながらも、真剣に取り組んでいます。続けていけば、必ず何か体の変化があるそうですよ。



やった！大きなヒラメをつかまえたよ

さけのつ 気高町酒津

10月28日（火）、酒津漁港でひかり保育園の園児たちが、生きた魚たちとふれあいました。地元漁協の人たちに用意してもらった水槽には、イシダイやタコ、ヒラメなど地元で取れる魚たちがいっぱい。初めはヌルヌルする感触に戸惑っている子どもたちでしたが、慣れてくると服がぬれるのも気にせず水槽に手を入れ、自分の顔より大きなヒラメを得意そうに持ち上げていました。

はしご車に大興奮

青谷町



10月25（土）と26日（日）、恒例の「青谷ようこそまつり」が開催されました。今年の祭りには、両日で約1万1千人が来場。ステージイベントや「つみれきのこ汁」「ポタン汁」の無料サービス、因州和紙を使ったちぎり絵体験など、さまざまな催しを楽しみました。中でも、今年登場したはしご車への乗車体験コーナーは大人気。上空40メートルから見る景色に、子どもたちは大興奮でした。

こえじあまごい 越路雨乞踊り

越路



10月19日（日）、米里地区に鎌倉時代から伝わる「越路雨乞踊り」が、15年ぶりに再現されました。国と鳥取県の無形民俗文化財にも指定されているこの踊りは、降雨の願掛けが叶った際に、感謝の印として越路神社に奉納されたことが始まりという伝統芸能です。この日は、地元保存会のメンバーらが色鮮やかな花笠をかぶり、笛や太鼓の音を響かせながらゆっくりと村中を練り歩きました。